

地質ニュース

昭和 46 年 8 月

第 204 号

1971

解説	南関東の地殻モデルに関する考察……………木村政昭…1
トピックス	よい原料炭を求めて……………石炭研究グループ…12
	顕微鏡下の岩石⑩～登米層スレート中の黄鉄鉱……………片田正人 村上正義…18
	地学環境の遠隔探知 赤外線地学への応用について⑤……………長谷紘和…22
講座	層位学(総論その6)……………福田理…34
	高温・高圧のはなし⑧……………針谷宥…44
海外事情	メコン河下流流域の鉱産資源⑥～鉛・亜鉛……………沢田秀穂…54
	学会掲示板……………11

編集 地質調査所

Iquius Nipponicus Jordan

表紙の写真

長崎県壱岐島長者原崎海岸の中新世と考えられる淡水性の珪藻土層から産するコイ科の魚化石である。同地層からは魚のほか植物・こん虫等の化石も多い。化石の産地としては古くから知られ「雲根志」後編に「虫魚草木の文理あり 自然の刻画に似て 魚紋のものいたって上品。余紅魚の形あるものを藏す」と記されている。200年ほど昔には実にりっぱな化石が得られたようである。

これについて初めて学術的に記載したのは D. S. Jordan (1919) でコイ科に類似しているが 脊椎骨・鱗・形などの特徴から ニシン科の新属として *Iquius Nipponicus* と命名した。最近科学博物館の友田淑郎 (1970) によって詳しく研究され C. Carpio L. と決定された。また壱岐島地学総合研究会のメンバーによって発見された象化石と共にさらに詳しい研究が続けられている。

この化石標本は 壱岐島の地質図幅調査の際得たもので 現在 地質調査所標本室に陳列してある (全長24cm)。

(文 松井和典 写真 正井義郎)

発行 株式会社 実業公報社